

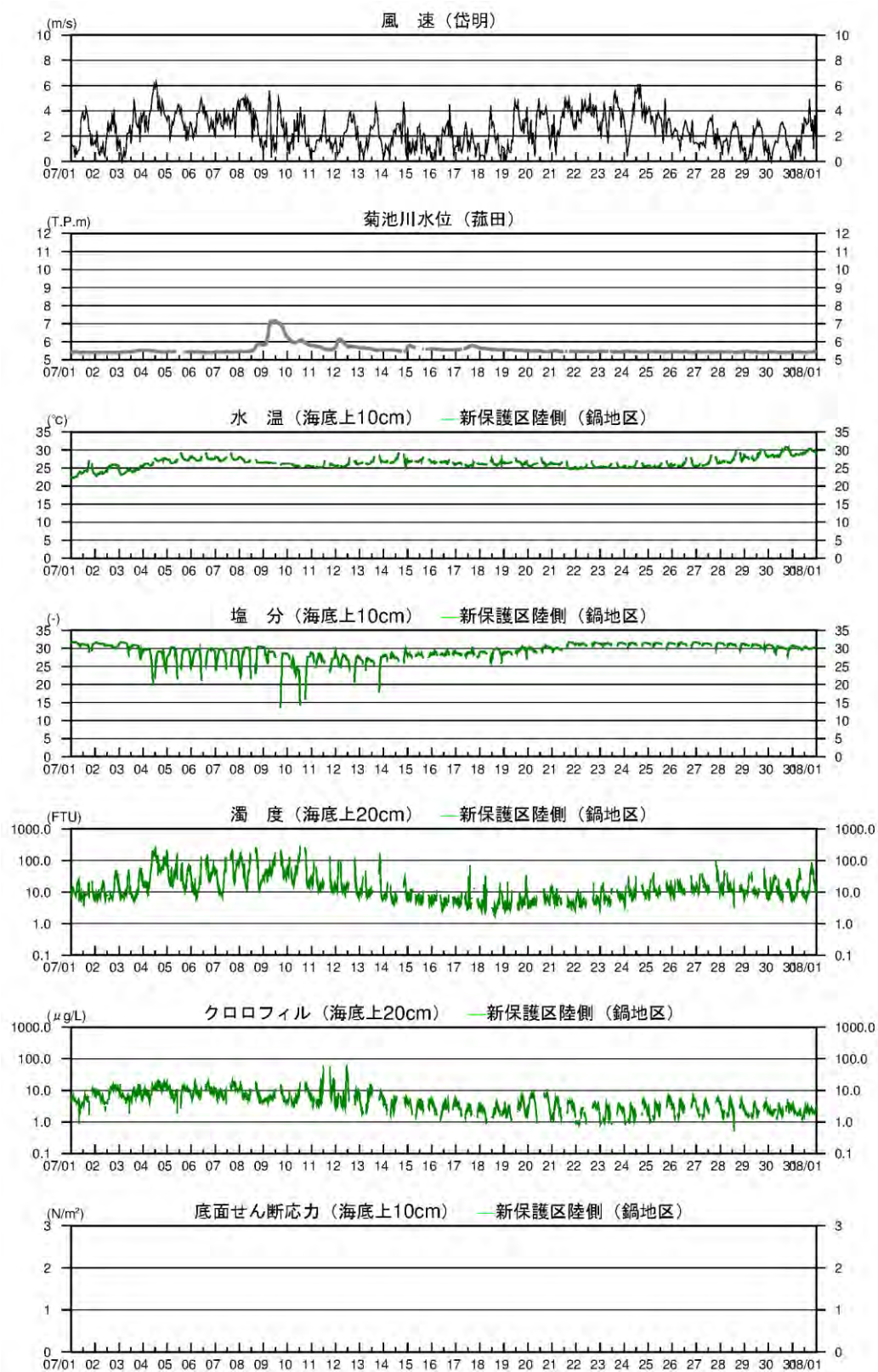


図 8 (3) 鍋地区における連続観測結果の時系列図 (2021 年 7 月)

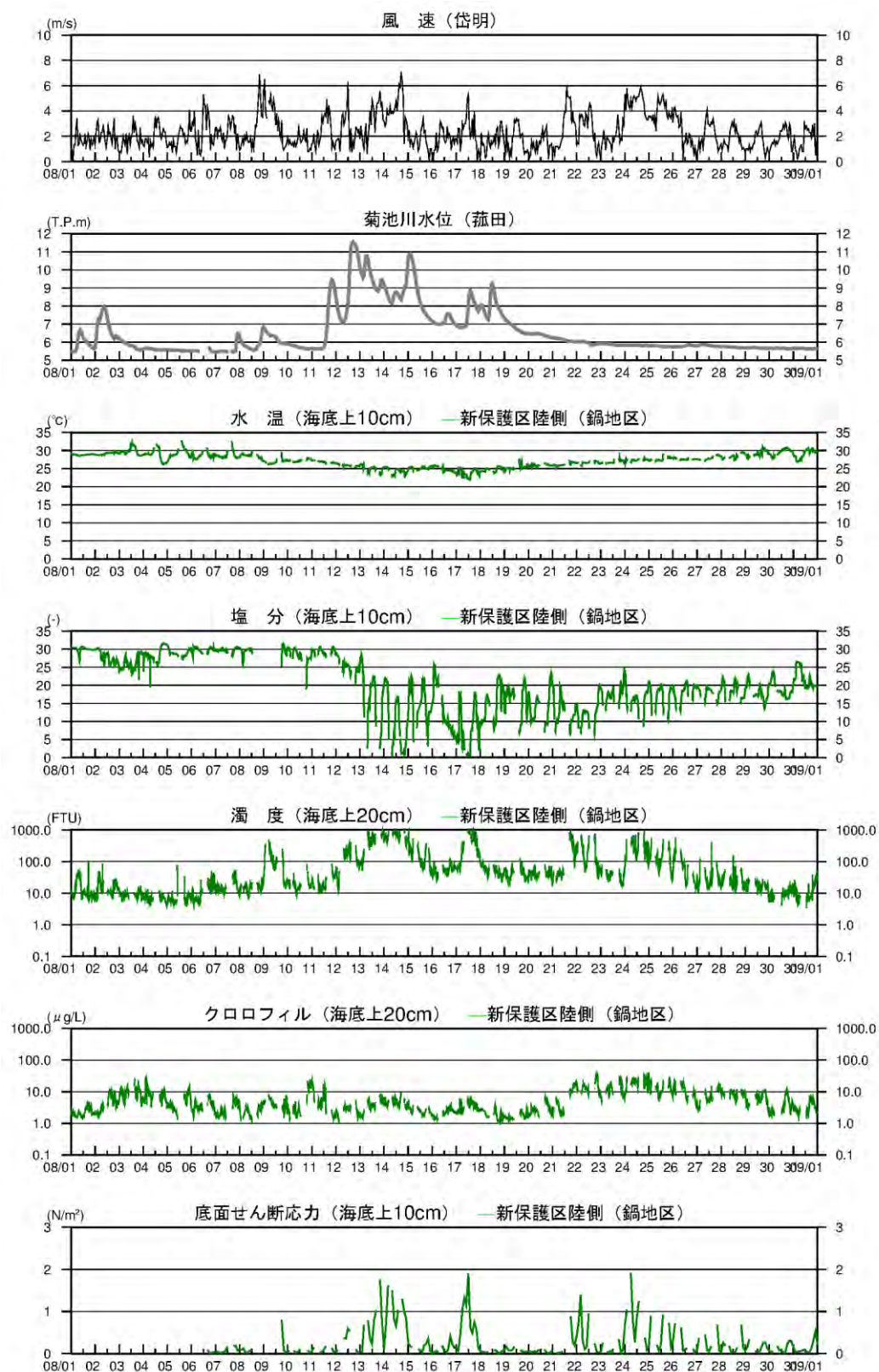


図 8 (4) 鍋地区における連続観測結果の時系列図 (2021 年 8 月)

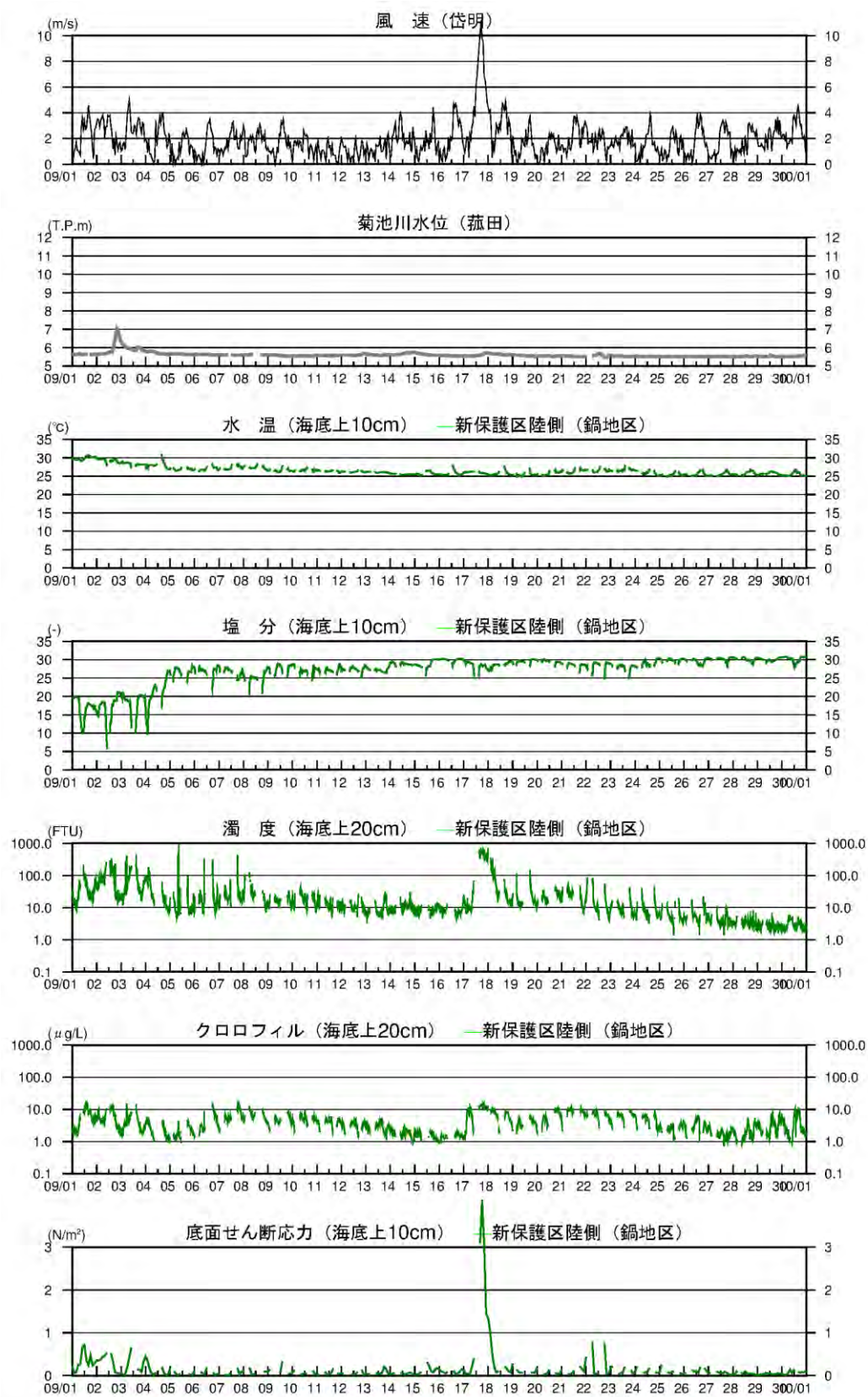


図 8 (5) 鍋地区における連続観測結果の時系列図 (2021 年 9 月)

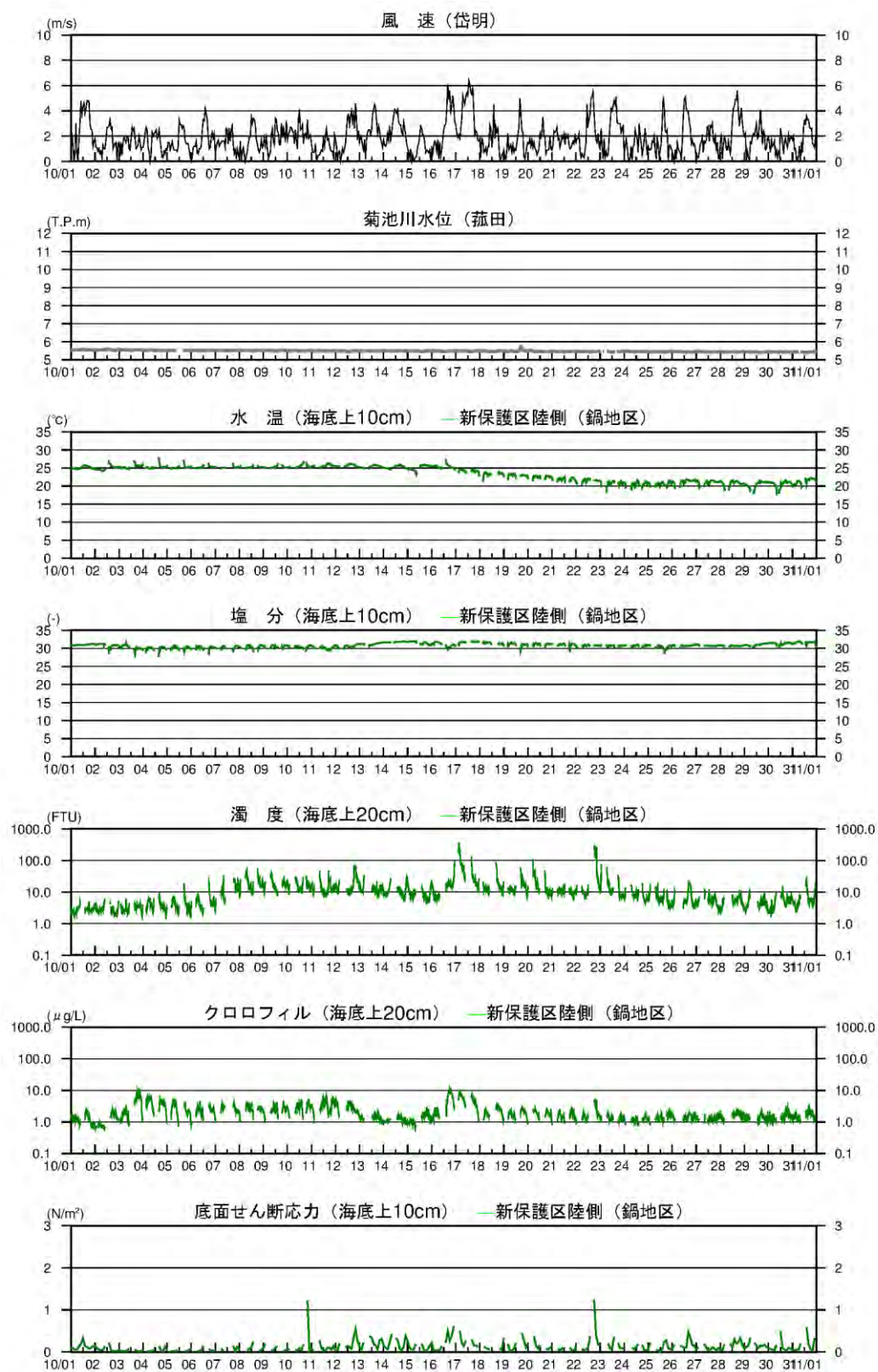


図 8 (6) 鍋地区における連続観測結果の時系列図 (2021 年 10 月)

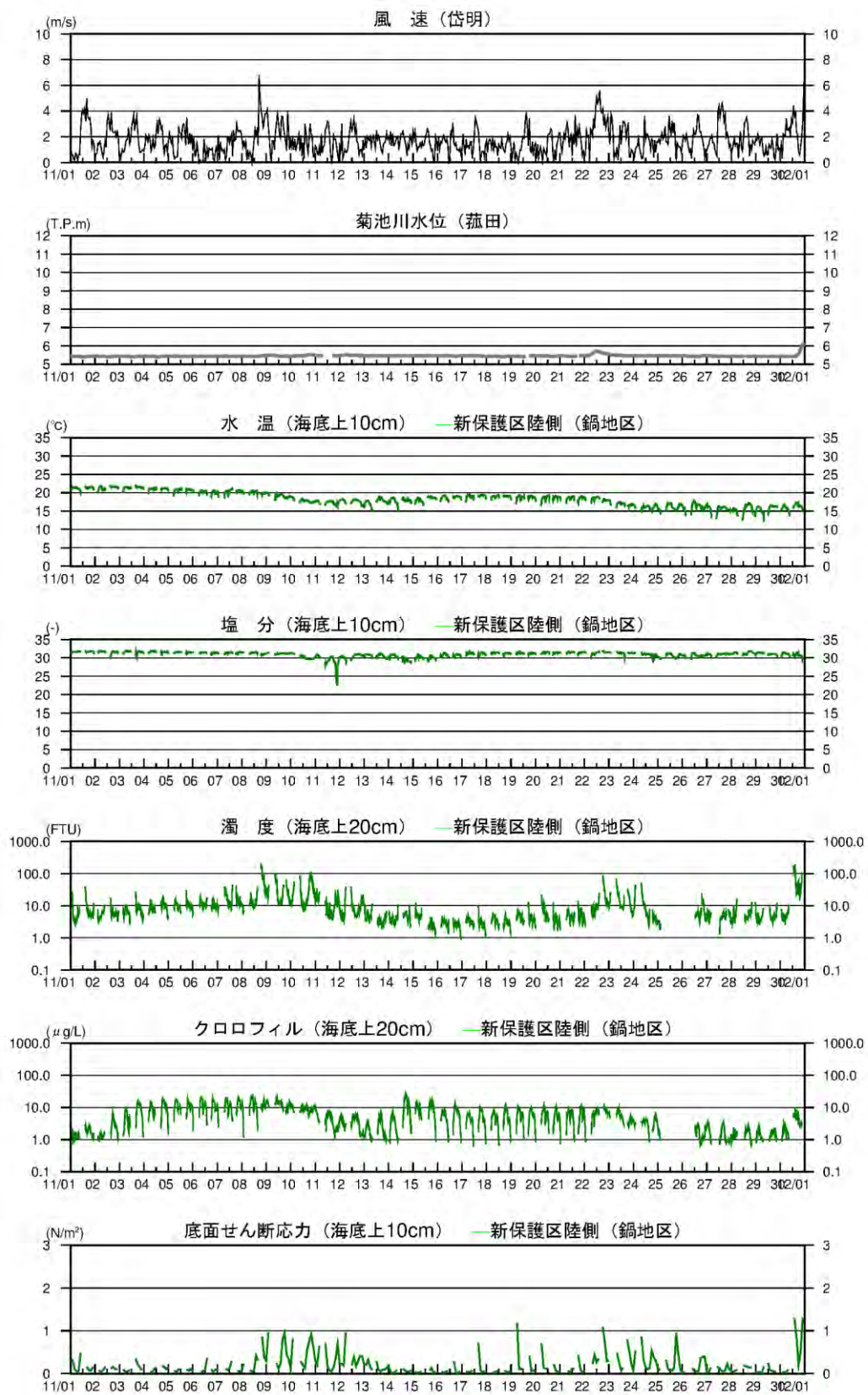


図 8 (7) 鍋地区における連続観測結果の時系列図 (2021 年 11 月)

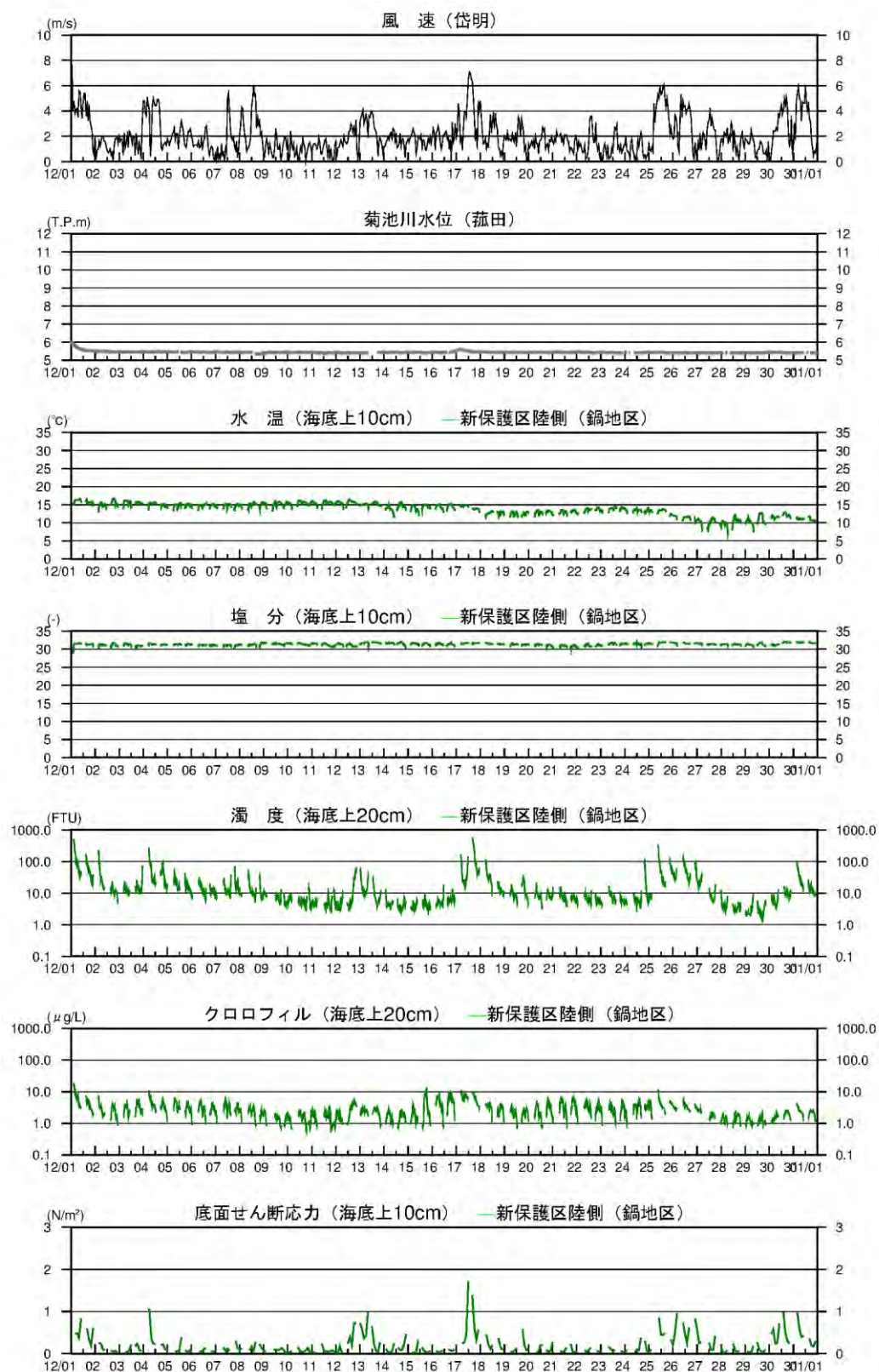


図 8 (8) 鍋地区における連続観測結果の時系列図 (2021 年 12 月)

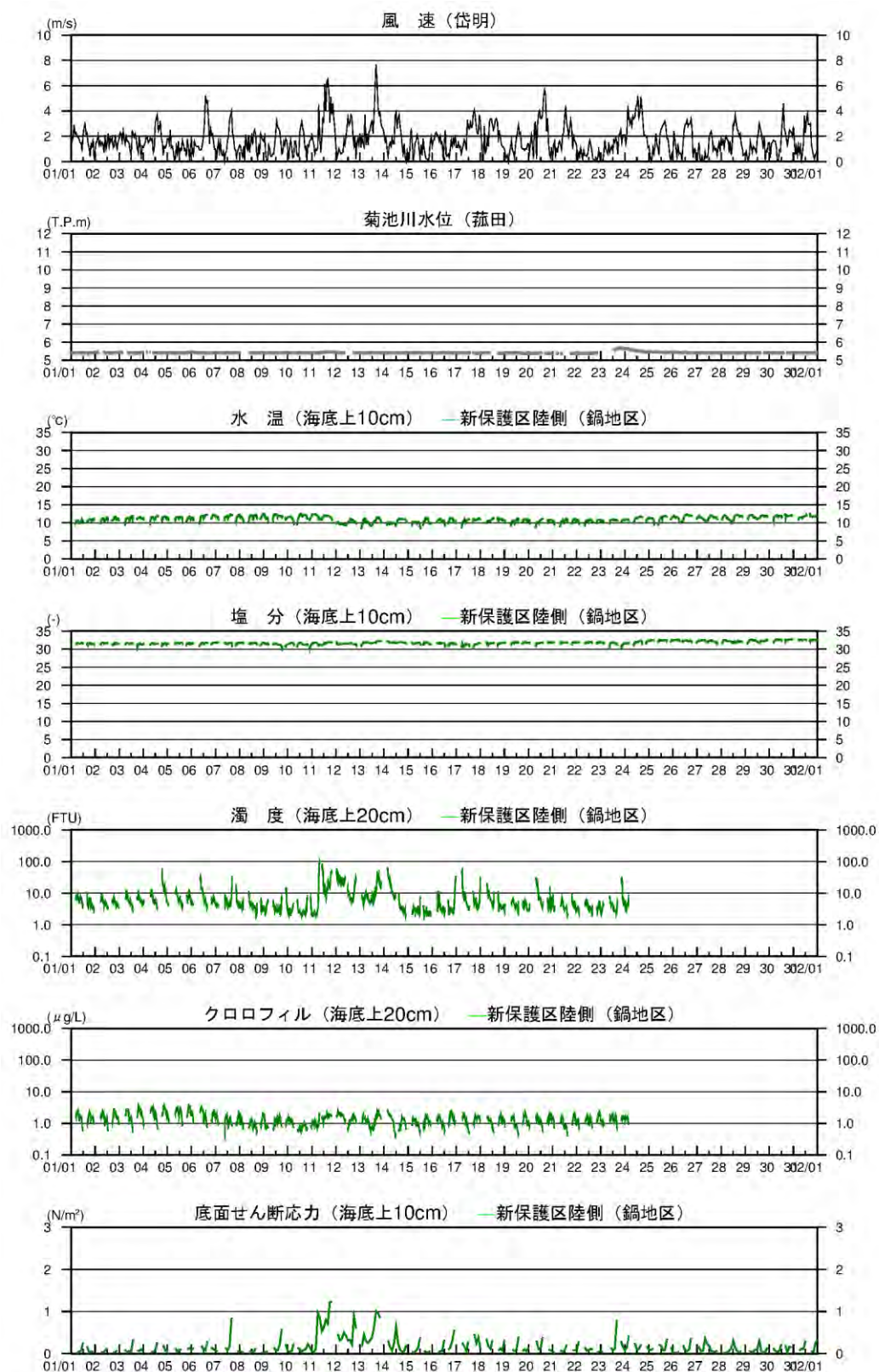
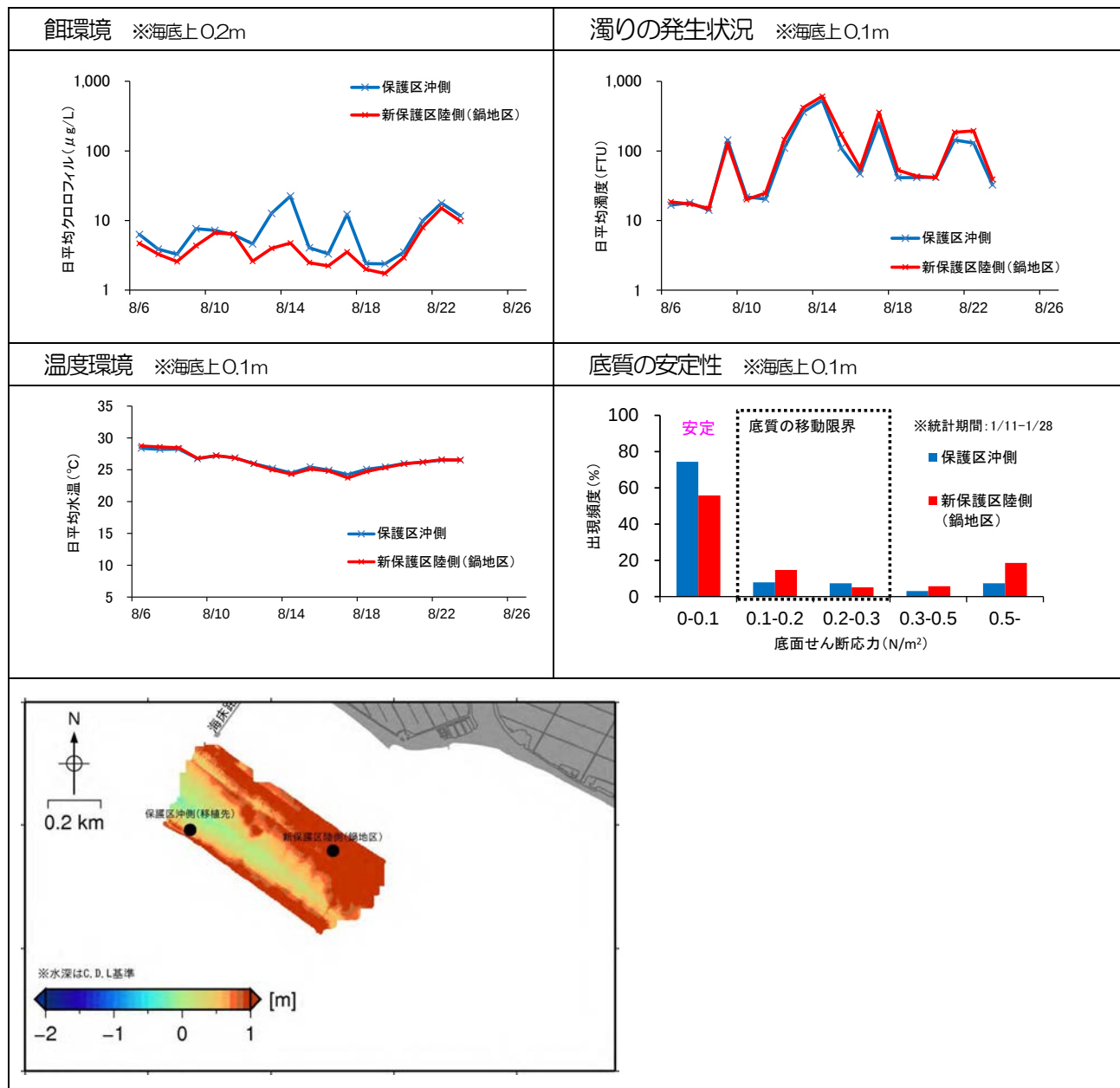


図 8 (9) 鍋地区における連続観測結果の時系列図 (2022 年 1 月)

計測されたデータから、アサリの成長・生残に重要と考えられる環境因子として、①餌環境（日平均クロロフィルa）、②濁りの発生状況（日平均濁度）、③温度環境（日平均水温）及び④底質の安定性（底面せん断応力）の状況を整理した。整理結果を図9及び図10に示す。

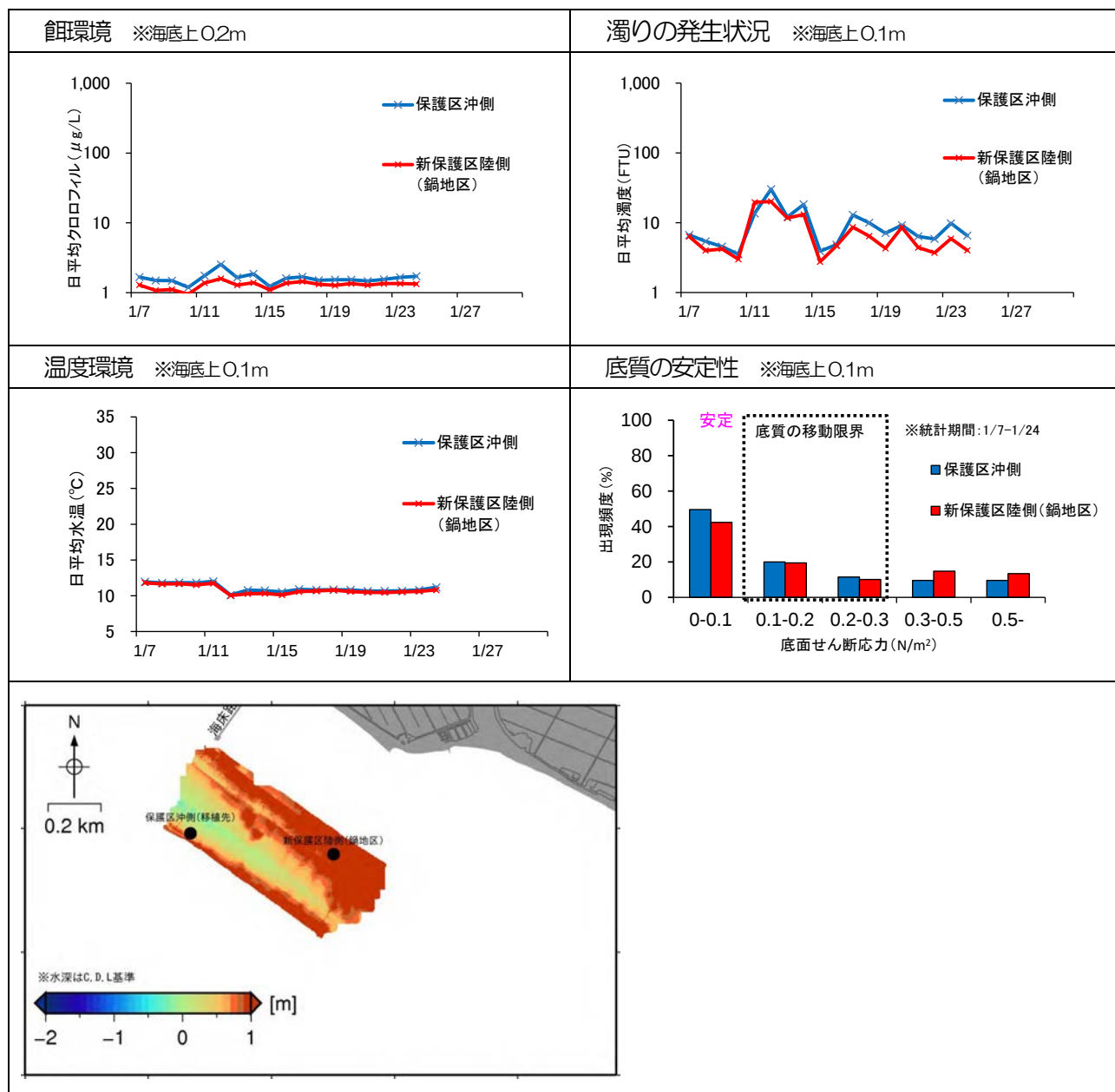
8月の餌環境は干潟沖側において鍋地区と比較してクロロフィルa濃度が高い傾向であった。濁りの発生状況は、2地点とも同程度であった。また、温度環境も同程度であった。底質の安定性は、干潟沖側で安定する傾向であった。これらの特徴は、過年度（令和2年度、平成31年度）の調査結果と整合的であった。12月は、餌環境、濁りの発生状況、温度環境及び底質の安定性について2地点とも同様の傾向であった。



※1 全地点が干出していない時間帯のみについて集計

※2 底質の移動限界は各地点の底質粒径や密度に応じて変化するため、図中では幅を持たせて表現している。

図9 各地点におけるアサリの生息環境の比較（8月調査）



※1 全地点が干出していない時間帯のみについて集計

※2 底質の移動限界は各地点の底質粒径や密度に応じて変化するため、図中では幅を持たせて表現している。

図 10 各地点におけるアサリの生息環境の比較 (1 月調査)